

2017年度

(平成29年度)

自己点検・自己評価報告書

厚生労働省の指針である「看護師養成所の教育活動に関する自己点検・自己評価指針作成検討会」報告書に基づき教職員を対象とした評価を 2013 年度から開始しました。2017 年度も評価を実施しましたので、以下にその結果を報告します。

## I 目的

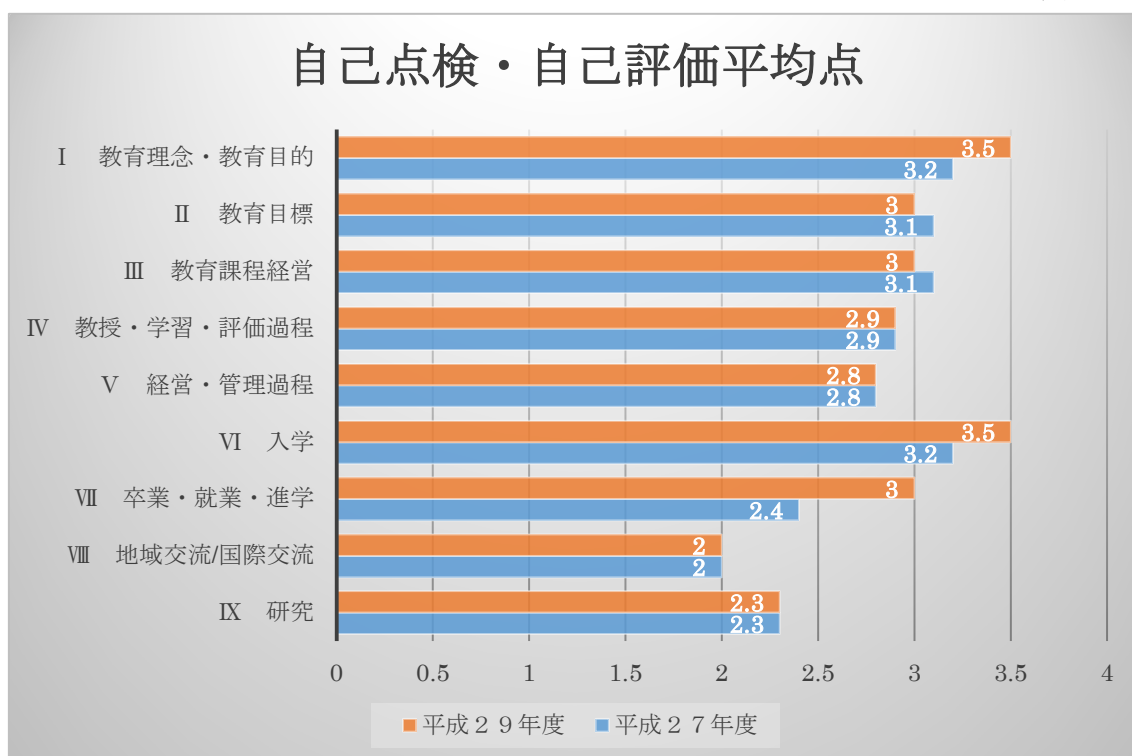
学校運営及び教育活動に対する自己点検・自己評価を継続的に行なうことで改善点を見出し、教育水準の維持・向上を目指すとともに、今後の学校運営に役立てることを目的とする。

## II 評価結果

平成 29 年度の自己点検・自己評価は「看護師養成所自己点検・自己評価指針」に則り、教育理念・教育目的、目標の達成状況、教育課程運営、学生の学習支援、学校運営等について 9 カテゴリー（123 項目）の評価表に基づき実施しました。

評価は 4 段階の評価尺度を点数化し、「4. そう思う」「3. ややそう思う」「2. あまりそう思わない」「1. そう思わない」とし項目の平均点を示し、前回（平成 27 年度）と比較しました。（図 1）

図 1



前回との比較において、カテゴリーⅠ・Ⅵ・Ⅶが上昇。カテゴリーⅡ・Ⅲがわずかに低下。カテゴリーⅣ・Ⅴ・Ⅷ・Ⅸが同等という結果となりました。平均点が3以下のカテゴリーに関しては改善策が必要と考えます。

#### Ⅰ・Ⅱ 教育理念・目的、教育目標

教育理念・目的は前回よりも上昇がみられ、生命を尊重し人間の可能性を信じるという教育理念のもと、教育活動に取り組んでいると考えます。教育目標は理念・目的との一貫性があり、教育目標をゴールに各学年の年次目標、卒業生の特性を指針とし教育を継続しています。

#### Ⅲ 教育課程経営

教育理念・目的の達成に向けて職員全体が到達レベルを確認しながら活動している。しかし教員の教育・研究活動の充実となると、教員の専門性を発揮できるような担当科目と授業準備のための時間が取れる体制は前回の評価と比べても 十分な改善がみられないという結果 でした。学生の看護実践体験の保障については評価が高く、臨地実習指導者と教員の協働体制、指導者と教員の役割など臨地実習施設との連携が機能していると考えます。実習基幹病院には当校の卒業生も多く実習指導に携わっており、その支援は大きなものといえます。

#### Ⅳ 教授・学習・評価過程

授業内容と教育課程の一貫性・妥当性という部分は前回の評価時も平均点が3以下となっていた。今後のカリキュラム改正も見据え、科目の整合性、妥当性など見直しが必要になると考えます。学生への単位認定のための評価基準については明確に示し公平性も保たれている。しかし 多面的な評価、多様な評価の方法という部分では評価が低くなっているため今後 様々な視点から学生及び教育活動をどう評価していくか検討が必要になると考えます。

平成27年の課題としては学力低下への対策が上がっていました。入学前学習については、継続して実施。推薦入学者はモチベーションが低下しないよう課題を与えるなど学習への支援をしています。入学後も担任・副担任が学習方法や目標を確認するなどしながら学習への動機づけ・支援を継続しています。また教員間で互いが教授すべき部分や進度の確認など行いながら、学生に効果的な指導ができるように協力しています。

#### Ⅴ 経営・管理過程

教務会議の際に事務方にも参加してもらうことによって、互いの意思疎通を図り、財政状況を理解した上で、施設の整備や学習環境整備のための教材の計画的な購入など先を見据えての検討もできるようになっています。広報については教育の特徴や魅

力をもう少し伝えるべきと考え、ホームページ等の充実も図っているところです。

自己評価の体制については、授業にフィードバックする機能としての評価は低くな  
っていました。今回の 自己点検・自己評価も踏まえ、教職員各々がどのように授業に  
反映していくか教育目標の維持・改善につながるよう今後検討していかなければなら  
ないと考えます。

## VI 入学

27年度の評価同様、少子化問題、看護系大学の設立により学生の確保が難しくなっ  
ている現状は変わらない。広報については前述したように今後も検討していく必要が  
あるところです。オープンキャンパス、高校での学校説明会などは継続して行ってい  
ます。

## VII 卒業・就職・進学

各病院における卒業生の活動状況については、学校行事時や看護部長会議等で情報  
交換を通して把握している。しかし実際卒業生からの声を聞いている訳でないため、  
卒業後の活動・就業状況の把握を当人から聞き、卒業生の活動状況を分析しながら教  
育活動の見直しなどを実施していくことは今後の課題となります。

## VIII. 地域社会・国際交流

前回同様低い評価となりました。国際看護に関しては、科目立てしておらず災害看  
護に重点を置いています。学生が 国際交流について関心が向けられるよう教育内容の  
検討は必要であると考えます。地域社会に関しては社会状況に目を向け、地域包括ケ  
アに貢献できる人材の育成に向けた教育などが必要になると考えます。

## IX. 研究

前回同様低い評価である。研究活動の保障や時間の確保などまだ十分にできない  
状況にある。また研究活動の保障、助言・検討の体制の課題もあります。

### 【今後の課題】

平成30年度より取り組むべき重点課題としては、「カリキュラム改正を見据えた準  
備としてカリキュラムの検討・見直し」「学生及び教育活動の多様な評価の検討」「自  
己評価をフィードバックし教育の充実を図る」「教員の授業準備の時間確保」「卒業生  
の活動状況の分析と教育活動の見直し」「国際看護に対する教育支援」「研究活動の保  
障」があげられます。

今回の自己評価・自己点検平均点が3以上のカテゴリーについてはより良い状態  
へ、3以下のカテゴリーに関しては改善策を立案し、教職員全員が意識し取り組み、  
教育環境及び教育の質の向上を目指したいと考えます。